

京都駅周辺地域のまちづくり活動

龍谷大学門前町サークル
植柳まちづくりプロジェクトチーム

Q: 外(海外)からみた京都と内からみた京都の違いは。

A: 日本に来たことがない外国人にとって京都は金閣寺・清水寺のイメージが強い。実際はそれ以外に貴重なものがたくさんある。仏具の「リン」をモチーフにゆるきゃら「おりんちゃん」をつくる発想もその一つ。外国人にとってもびっくりすることだ。

横: 外国人や学生が入ることで、忙しく過ごす地域の人の刺激にもつながっている。

水軒堤防の再生と市民の公園の実現

水軒の浜に松を植える会

Q: もともとあった綺麗な松の景色を再生すると同時に、より多くの人に利用してもらおうとアイデアを出し合っている平成20年から活動されているが順調か。

A: まだまだやらなければいけない課題がある。植える時は炭を根元に植えると炭に菌が付き、松の木は元気に育つそれでも枯れた木をどうしていくかが課題だ。

新今宮観光インフォメーションセンターを核とした新たな社会的実践の展開

阪南大学国際観光学部
松村嘉久研究室

横: 新今宮エリアは簡易宿舎が密集する地区だった。高齢化により段々と成り立たなくなっていった。しかし今では安価で泊まれるとあってバックパッカーが大勢訪れる場所となった。その変化に対応する為、若い学生の力で様々なことを実践している。

スタート時は3,000人程度の外国人を対応していた。今年は130,000人となる予想。価格も安くなっている。すごい形でまちがかわっていつている。学生たちは夏休みにTICに行くのだから外国人もその時期にたくさん訪れるので上手く成り立っている。

Q: 新今宮は関空にも、奈良・京都にもアクセスしやすく非常に便利だが、治安はどうか。

A: 昔は色々あったが、当時の人は高齢化が進み少し元気がなくなった。簡易宿舎はホテル並みになり、まちも綺麗になっている。

横: 新しい要素が入ることで、まちがどんどん変わる。行政も意識が変わり、道路やまちを綺麗にしてくれるようになった。治安の悪かった部分は小さくなっていつている。



山添村の耕作放棄地の資源を活かしたむらづくり

里楽

Q: お茶が椿科ならばシャンプーにも良さそう。炭もせっかくだから付加価値を付けて売れたらいいと思うがアイデアはあるですか。

A: 絵を書くときに炭を使っているのだが、硬さなど一度試して確かめてみる。

Q: お茶は抹茶スイーツ開発など進化の過程にある。また宇治茶は日本食の次に世界遺産登録を目指している。その流れにのると面白いかもしれない。

A: 里楽鍋というものには、お茶が入っている。奈良は名物が少ないのでいいかもしれない。アイデアがあればぜひ里楽まで頂きたい。

Q: 羊肉を食べたり、羊毛で服を作ったりすることしか知らなかったの、羊で雑草刈りをしていることにびっくりしたしかし草の根っこまで食べてしまわないか

A: 休耕田の除草対策なので、刈る場所を移動させながら行っている。根っこまで食べることはないし、草は強いのでまた生えてくる。砂漠化を防ぐ為に頭数は調整しながら行っている。日本は高温多湿で草が無限に生えているので、それを資源とするのも面白い。

小さな自治体・東堅町のまちづくり 伝統文化の継承と発展「猿楽能と町衆」

東堅町自治会文化委員会・
伝統文化部会

横: 切り絵の技術がすごい。何か発注できればと思う

Q: 大阪市の城東区からきており地域の活動をしている。その中で「猿楽祭」を行っている。自分たちの地域には他に何もないので、「猿楽」を売りにしてまちづくりをしている。ぜひ情報を交換しながら一緒にできればと思う

A: ぜひやりましょう。猿楽能は奥が深いので非常に面白い

横: この場でつながりネットワークができたことが面白い。

地域資源を生かして、いろいろな取り組みが各地で行われている

この発表会もどんどん進化をして、毎回勉強させてもらっている

本日はどうもありがとうございました。

